



e スポーツが繋ぐ地域と人

山本 永太

(湯沢市地域おこし協力隊)

1 これまでの暮らし

私は、生まれ育った千葉県内の大学を卒業後、自分の得意分野を活かせる都内のIT企業へ就職をしました。何社か内定をいただいていた中で、豊富な種類の経験値の蓄積が望めること、手厚い福利厚生によるプライベートの充実が見込めること、この2点に魅力を感じ、就職を決めました。この決め手となった2点は、他人には些細なものに見えても、私にとってはとても重要なポイントでした。

私自身そう実感したのは、入社して間もなくのことです。いざ入社してみると、私が魅力的に感じた2つのポイントは、会社の業績や方針転換の影響により、全くなくなってしまったのです。入社を決めた理由が全くなくなってしまったら、私がそこに入社した理由はいったい何だったのだろう。そんな気持ちにならざるを得ない状況で仕事を続けても、何の身になるはずもなく、まさに「やりたくないことをやらされている」という状態でした。しかし、すぐに辞めるわけにもいかないため、そのまましばらく働いていました。自分にとってプラスにならない、そんな状況をいい加減脱したいという気持ちが日に日に強くなり、次の職は決まっていながらも離職することを決断しました。

そんな後先考えないような人間なのかと思われるかもしれませんが、この点に関しては大きな声でNOと言いたい気持ちです。

自分で言うのも何ですが、私はこれから起こる事をしっかり予測したうえで動くということをととても大事にしています。人生の岐路的な場

面だけでなく、日々の生活の中でも想定外の事態が起こるのはとても苦手であり（これは誰でもそうだと思いますが…）、可能な限り起こり得る全てのことを想定し、保険をかけ、どうなってもリスクを最小限に抑えられるように心掛けています。

話は逸れましたが、振り返ると、そんな私が後先考えずにあのかき離職を決断したのは、一種の挑戦だったのです。後付けに聞こえるかもしれませんが、当時から本気でそう思っていました。家族だけでなく、これまで関わってくださった多くの方に迷惑をかける可能性はあったけれど、人生何とかなるとはよく言ったもので、実際どうとでもなるものだ日々感じています。

2 地域おこし協力隊との出会い

定職を離れ、しばらくは既に行っていた副業を引き続きこなしつつ、貯金を切り崩して生活していました。そろそろ就職しないと、そう漠然と思い始めたそんなある日、SNSを見てみると、「e スポーツを使った地域おこし協力隊募集中！」の文字が目飛び込んできました。その広告を見た私がまず感じたのは、「何だこれは」というものでした。

地域おこし協力隊という言葉すらその時まで聞いたことがなく、今思うと人生の岐路はそんな些細な日常に落ちているものなのだと改めて感じます。

今でこそ湯沢市に来るきっかけとなった大きなことですが、そんな広告の1つや2つは世の中に溢れており、普段ならスルーしていたと思

います。しかし、脳裏にあった「就職しないと」という思いと、元々興味のあった「eスポーツ」の文字が、私を検索フォームへと誘っていきましました。

調べてみると、どうやら行政が主導するeスポーツを使った町おこしを、中心となって引っ張っていく役割のようだ。それが仕事としてできるのは面白そうだと直感的にそう思ったのです。概要に興味を持ち、そのまま調べ進めると、その募集は秋田県湯沢市だそうで、私が人生の大半を過ごしてきた千葉県からは道のりにして遥か700kmも離れた地であり、正に天涯地角でした。そう簡単に移住を決められるほどの思い切りは流石になく、しばらく悩んでいました。

しかし、前職をある意味挑戦的に辞めた私は、「このまま挑戦を続けた方が良いのではないかな？」そう思い始めました。また、私の中で、飲み会の場で話題にできるようなエピソードトークが尽きない人生を送りたいという常々の思いに背中を押され、今に至ります。



(佐藤市長より任命状の交付)

3 協力隊になってみた

ここまで協力隊になるきっかけの部分について多く語らせていただきましたが、実際に遥か遠く、この秋田の地に降り、協力隊になってみてどうなのかと。率直に申し上げるとまだ分からないというのが私の今の素直な気持ちです。

2024年10月に着任し、それからあっという間に約半年以上が経ち、この生活にも慣れてきたと言えるまでにはなりました。

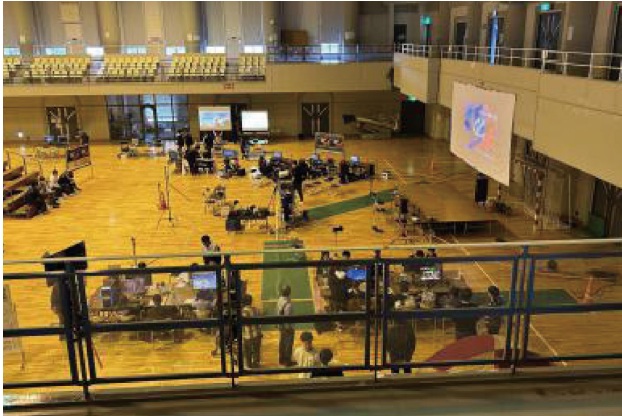
着任してすぐの10月末に開催される「ゆざわeスポーツフェスタ」という、毎年行われているイベントに「力を貸してほしい」と言っただき、あまりにすぐのことに新天地で緊張している暇もありませんでした。

このイベントは、人気ゲーム「グランツーリスモ7」の熱い大会と、「ストリートファイター6」の白熱したトーナメントをメインに、一日中楽しめる内容が盛りだくさんでした。会場では、Team desiLab.やeスポーツコミュニティによる体験コーナーが設けられ、最新のゲーミングPC展示やeスポーツタイピングも体験でき、誰でも身近にeスポーツに触れられる機会が用意されていました。さらに、障がいのある方や高齢者の方々も楽しめるeスポーツ体験、ドローン体験、コスプレ撮影会など、多様な催しが企画されており、キッチンカーも出店し、eスポーツだけでなく、サブカルチャーの観点でも訪れる人々を一日中楽しませる事の出来るとても素敵なイベントでした。

準備から開催まで余裕もなく、イベント内の大会に使う賞状の作成やトーナメント表の作成、レギュレーションの作成、各所への連絡等、ただひたすらこなしていきましました。周りの皆様の協力もあって、イベントは盛況のうちに終了することができました。足を運んでくれた方々にも楽しんでもらえて、私自身やってよかったという気持ちになり、また皆さんに別の機会でも楽しんでもらいたいと思えるイベントになりました。

一大イベントが終わったのも束の間、今度は各地区センターでの普及・交流を目的としたイベントの開催依頼や、eスポーツに関する講演依頼、ラジオ出演依頼等をいただき、そちらの

準備と対応等、本当に様々なものにいきなり携わらせていただき、それだけでも湯沢市に来てよかったなと思える日々でした。



(ゆざわeスポーツフェスタVol.5)



(講演会の様子)

また、2025年5月には、市内の企業を集めて「企業交流デジタルバトル」と称した、eスポーツイベントを開催しました。このイベントは、「ストリートファイター6」を用いた企業対抗のeスポーツ大会で、参加者たちは熱い戦いを繰り広げました。会場にはeスポーツ体験コーナーが設けられ、「グランツーリスモ7」や「Meta Quest」を自由に試すことができ、高性能なプロ仕様の機材に触れる機会も提供されました。

本イベント開催にあたって「地域企業間の交流促進」、「社員間のコミュニケーションとチームワークの向上」、「地域住民への認知度向上」、「地域活性化と発展への貢献」、「わくわく感の醸成」の5つの目標を設定しました。大会を通

して、地域企業間の親睦を深めてもらうとともに、市民の方々にもその様子を見ていただき一緒に盛り上げられるイベントにすることができて、目標も達成できたのかなと思います。

また、今回は、従来までの子供やお年寄りをターゲットに実施されてきたイベントとは異なり、主に若者をターゲットにしたことで、本来の競技としてのeスポーツの側面が強まり、今までにない良さが生まれたイベントになりました。2024年11月から企画構成や市内企業への声掛け等の準備を行ってきており、ようやく開催までこぎ着けたものだったので、一つ肩の荷が下りた気持ちです。

しかし、そうも言っていられず、これが終わったらまた次の開催、eスポーツ関連の講演会等々、やるべき事は山積みのため、これからも気を抜かず、より一層気を引き締めて活動していきたいと思っています。



(企業交流デジタルバトル)

4 今後の活動について

任期が3年と限られた時間の中で、地域おこし協力隊という役割をできる限り全うし、湯沢の中心商店街をはじめとした市内全体の活性化に繋がるよう、ひとつひとつこなしたいと思っています。

まずは、市民への普及啓発の面で、eスポーツというものがどんなものかというのを広く知っ

てもらうこと。次に実際にやってみて楽しいという気持ちを分かってもらうこと。全てはこの2点から始まると考えているので、そこを積極的に進めていきたいと思っております。

「eスポーツ」と聞くと、若者向けの激しいゲーム、というイメージを抱く方もいらっしゃるかもしれません。しかし、実はこのデジタル世界での競技は、年齢や身体能力の壁を越え、子供からお年寄りまで誰もがその魅力を楽しむことができる可能性を秘めているのです。

まず、子供たちにとってのeスポーツは、単なる遊び以上の意味を持ちます。戦略を練り、仲間と協力して目標を達成する過程は、思考力や協調性を育む貴重な機会となります。また、成功体験を積むことで自己肯定感を高め、時には悔しさをバネに次への努力を促すこともあります。画面の向こうの仲間とのコミュニケーションを通じて、多様な価値観に触れることができるのも、デジタル時代ならではの学びと言えるでしょう。

一方で、大人、特に現役世代の私たちにとっても、eスポーツは新たな交流の場を提供してくれます。仕事のストレスからの解放や、普段出会うことのない異業種の人々との交流は、気分転換だけでなく、新たな視点やアイデアを得るきっかけにもなります。共通の趣味を通じて生まれる連帯感は、日々の生活に彩りを与え、活力を生み出すことでしょう。

そして、お年寄りにとってのeスポーツの魅力は、想像以上に大きいものです。反射神経や判断力を要するゲームは、脳の活性化に繋がります。また、オンラインで世界中のプレイヤーと繋がることで、孤独感の解消や、社会との繋がりを再認識する機会にもなります。身体的な制約があっても、指先一つで世界と繋がり、対等に競い合えることは、計り知れない喜びと生

きがいをもたらすはずです。

eスポーツは、単に勝ち負けを競うだけでなく、コミュニケーション、思考力、そして何よりも「楽しむ」という本質的な喜びを与えてくれます。デジタル技術の進化は、私たちに新たなエンターテインメントの形をもたらし、年齢や立場を超えて、誰もが等しく輝ける舞台を創造しています。子供たちが目を輝かせ、大人が熱中し、そしてお年寄りが笑顔になる。そんなeスポーツが持つ無限の可能性こそが、これからの社会において、多くの人々を繋ぎ、心を豊かにする原動力となるに違いありません。

また、協力隊として望まれていること、これからの自分自身のことなど、考えなくてはならないことは山積みで、どちらもそう簡単に答えが出るようなものでもありません。

しかし、この3年間でそれぞれの答えを見つけ、湯沢市とともに成長できることを私自身楽しみに日々の生活を送っていきます。

<担当者から一言>

湯沢市では現在、寄稿した2人の隊員のほか、舞妓・芸妓文化の活動を通じた情報発信に取り組む隊員が2名おり、それぞれのスキルを活かしながら、湯沢市の魅力発信、まちのファンづくり、中心市街地の活性化に取り組んでいます。

多様なアプローチで地域資源の掘り起しや魅力創出に取り組み、湯沢が持続可能なまちであり続けるとともに、市民はもちろん、市外の方にも「湯沢はいいところ、大好き!」と感じてもらえるよう、力を合わせて取り組みを進めていきたいと思っています。

(湯沢市ふるさと未来創造部

まちづくり協働課 小沼 典子)